

令和6年産(5年播)麦生育情報 No.3 (R6.2.29)

(情報作成)滋賀県農業技術振興センター

(今回は3月下旬の予定)

滋賀県近江八幡市安土町大中 516 (TEL:0748-46-4391)

1 気象経過と生育状況

① 気象の経過 (彦根気象台、平成26年～令和5年の平均値との比較)

期間	要素	平均気温	日照時間	降水量
1月	上旬	やや高い	かなり多い	平年並
	中旬	高い	平年並	平年並
	下旬	やや高い	平年並	平年並
2月	上旬	高い	平年並	平年並
	中旬	かなり高い	平年並	やや少ない

注) 平均気温 <±0.5℃:平年並、±0.5～1.0℃:やや高い(低い)、±1.0～2.0℃:高い(低い)、±2.0℃<:かなり高い(低い)
 日照時間 <±5hr:平年並、±5～10hr:やや多い(少ない)、±10～15hr:多い(少ない)、±15hr<:かなり多い(少ない)
 降水量 <±10mm:平年並、±10～20mm:やや多い(少ない)、±20～30mm:多い(少ない)、±30mm<:かなり多い(少ない)

② 生育状況【農業技術振興センター麦類作況調査(2月14日現在)より】

- 3品種とも茎数多く、草丈長く、葉数多い傾向にある。
- 「びわほなみ」は平年に比べ、茎数はやや多く、草丈はやや長く、葉数は0.3枚多い。
- 「ふくさやか」は平年に比べ、茎数は多く、草丈はやや長く、葉数は0.7枚多い。
- 「農林61号」は平年に比べ、茎数はかなり多く、草丈は長く、葉数は0.7枚多い(表1、後掲グラフ)。
- 葉齢の進展程度から見た各品種の生育は、1月15日時点からさらに早まり、平年より約1～2週間早まっている。

表1 令和6年産(5年播)麦類作況調査の結果

農業技術振興センター(近江八幡市安土町大中)

品種名	年次	1/15 調査			2/14 調査		
		茎数 (本/m ²)	草丈 (cm)	葉数 (枚)	茎数 (本/m ²)	草丈 (cm)	葉数 (枚)
びわほなみ	R6年産 (平年比)	950 (113)	18.5 (101)	5.6 (+0.2)	986 (110)	24.9 (105)	7.0 (+0.3)
	平年	839	18.4	5.4	895	23.8	6.7
ふくさやか	R6年産 (平年比)	700 (119)	21.0 (107)	5.5 (+0.2)	768 (120)	24.5 (105)	7.1 (+0.7)
	平年	590	19.6	5.3	639	23.4	6.4
農林61号	R6年産 (平年比)	962 (143)	22.9 (110)	5.5 (+0.4)	960 (134)	28.8 (118)	6.9 (+0.7)
	平年	672	20.8	5.1	717	24.5	6.2

※播種日:令和5年11月8日。 ※播種量は8kg/10a条播(条間25cm)。

※平年は平成26～令和5年産(平成25～令和4年播)の10年間の平均値。

※「びわほなみ」の平年は平成28、30年～令和5年産(平成27、29年～令和4年播)の7年間の平均値。

2月14日現在の小麦の生育状況(農技センター作況調査)



「びわほなみ」



「ふくさやか」



「農林61号」

2 県内の状況

- 1月以降、気温が高い傾向が続いており、年末までの生育抑制傾向は一転し、生育が旺盛になっている。
- 早播きのは場では特に生育が旺盛となっており、茎立ち期(主茎長20mm)を過ぎ、茎数の増加は止まっている。

3 今後の管理

(1) 追肥(穂肥)

①速効性肥料の分施肥体系(基肥—追肥—**穂肥**—実肥)の場合

- 穂肥は2月下旬～3月上旬に施用する。
- 茎数が少ないほ場では、有効茎歩合を高めるために、早めに穂肥を施用する。
- 農林61号で茎数が多い場合は、過剰分げつを抑制するために、施肥量をやや減量し、生育の調整を図る。

②基肥一発体系の場合

- 基肥一発肥料(緩効性肥料)を施用している場合でも極端に葉色が落ちているところは、3月上旬までに窒素成分で2kg/10aを限度に追肥する。

③後期重点施肥の場合

○穂肥時期は、茎立期（主稈長が「2 cm」になる時期）が目安です。

○麦類作況調査（農業技術振興センター）の11月8日播き「びわほなみ」では、2月10日にすでに茎立期を確認しています。

○今年の生育は平年より約1～2週間早いいため、多くのほ場では既に茎立期を過ぎていることも想定されますので速やか確認し、穂肥を施用しましょう！



※播種時期が遅く茎立期が3月上旬以降になる場合は、茎立期を待たずに3月上旬までに穂肥を施用し、茎数を確保しましょう。

④融雪後の施肥

○分施体系（上記①の場合）で、積雪のため穂肥が施用できなかったほ場は、融雪後、なるべく早く穂肥を施用する。

○融雪後に追肥や穂肥を施用する場合は、地表面に溜まった融雪水を排水したのちに実施する。

（2）排水対策

○融雪水などの滞水による排水不良は、根の伸長が不十分となって登熟不良にもつながるため、溝に水がたまったままの状態にならないよう、溝さらえを行うなど徹底した排水対策を講じる。

【参考サイト】

農業技術振興センター <http://www.pref.shiga.lg.jp/nougicenter/>

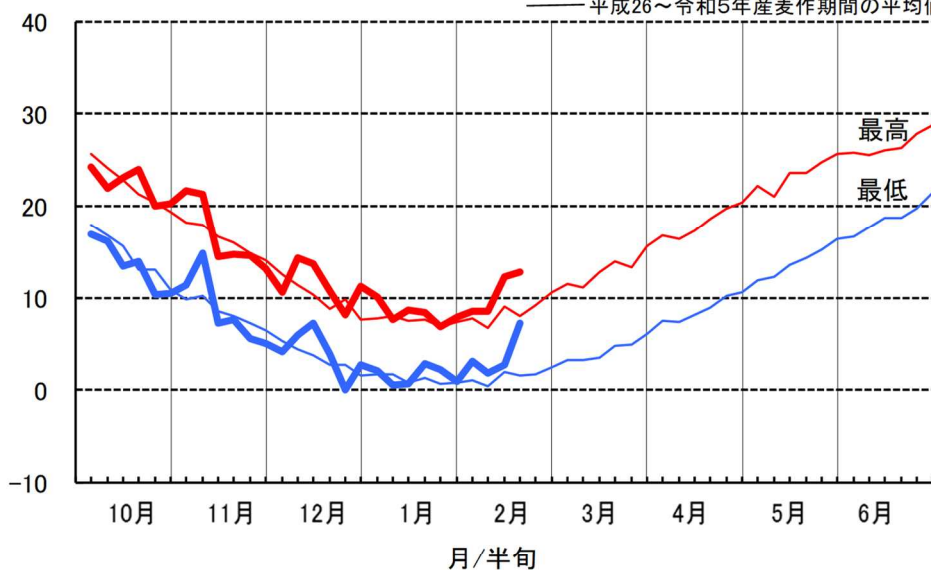
病虫害防除所 <http://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo/>

彦根地方气象台 <http://www.jma-net.go.jp/hikone/>

早期天候情報 <https://www.data.jma.go.jp/cpd/souten/>

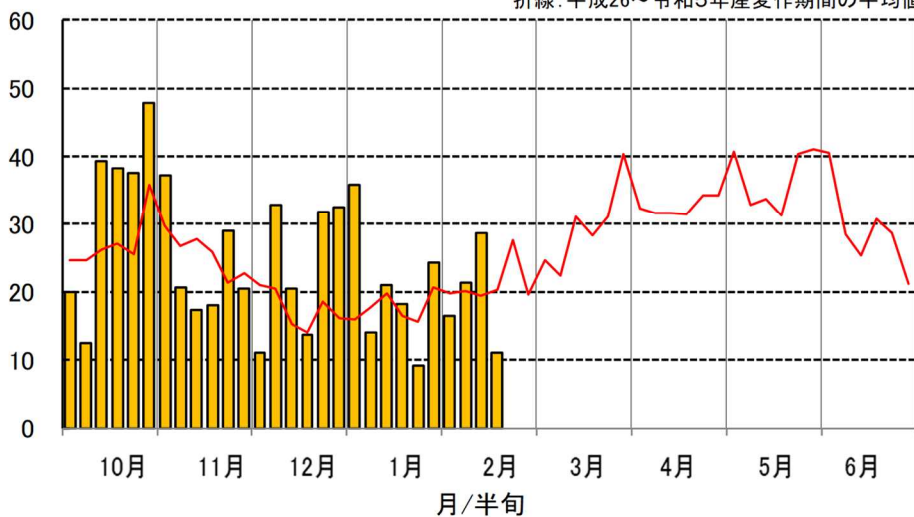
令和6年産(令和5年播) 麦作期間半旬別気象図(彦根気象台観測)

(°C) 【気温の推移(最高気温、最低気温)】 — 本年(令和6年産)
 — 平成26~令和5年産麦作期間の平均値



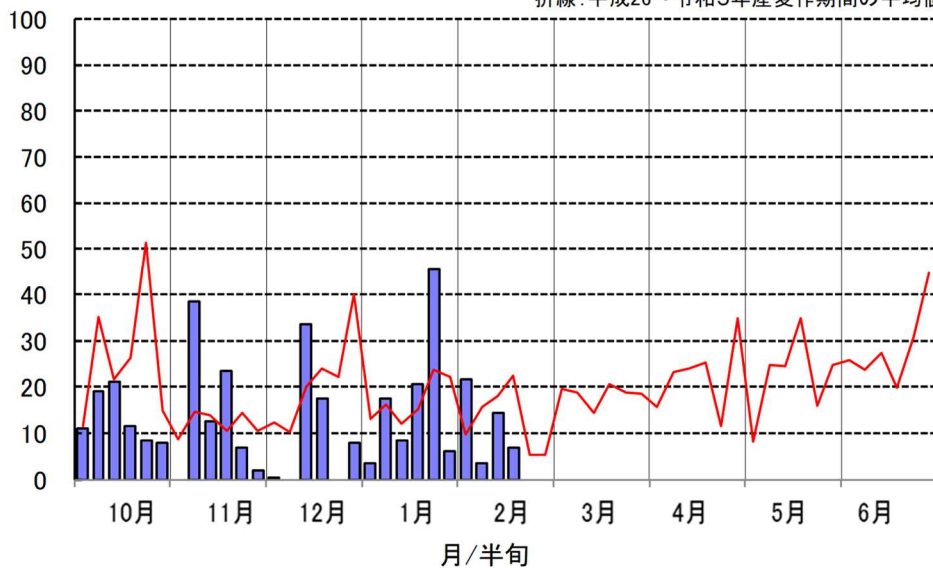
(hr) 【日照時間の推移】

棒線: 本年(令和6年産)
 折線: 平成26~令和5年産麦作期間の平均値



(mm) 【降水量の推移】

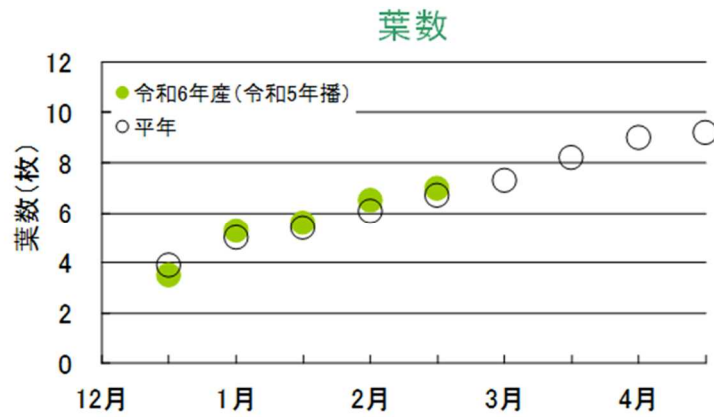
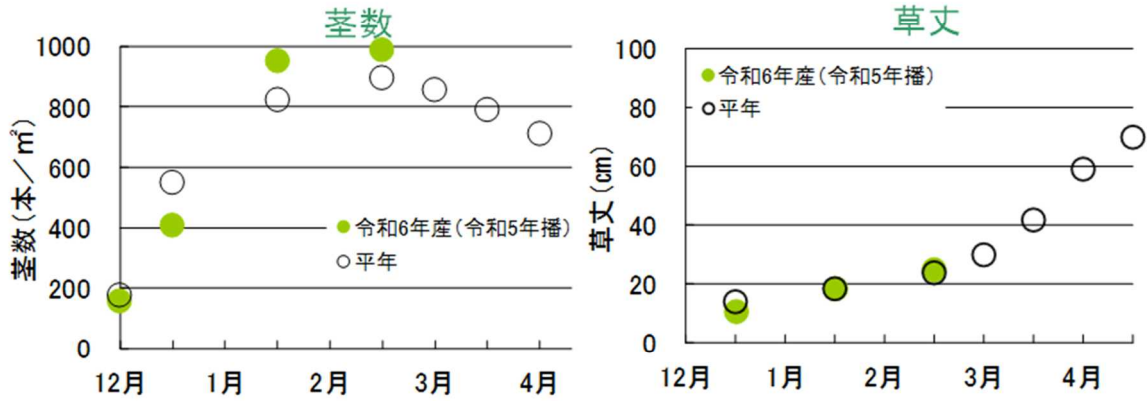
棒線: 本年(令和6年産)
 折線: 平成26~令和5年産麦作期間の平均値



令和6年産生育調査結果(1)

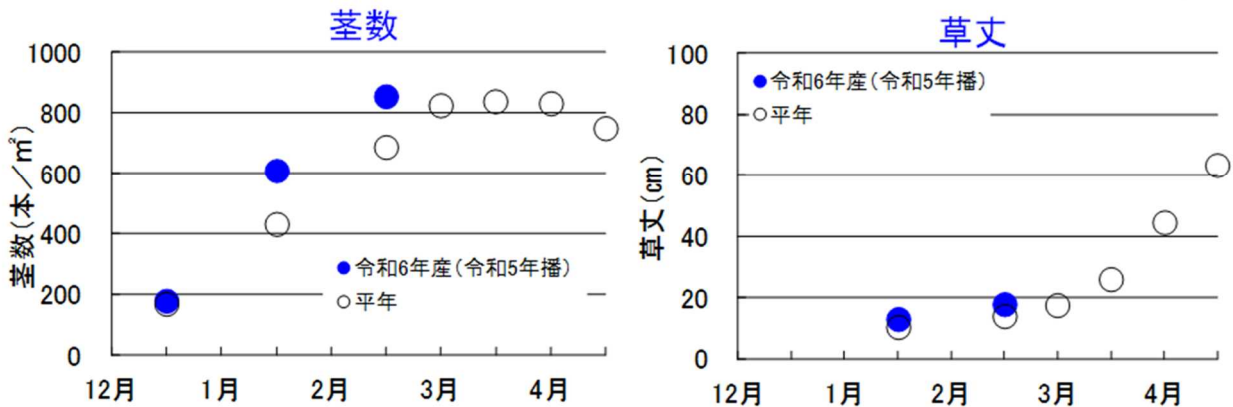
「びわほなみ」

令和5年11月8日播



(参考)

令和5年11月20日播

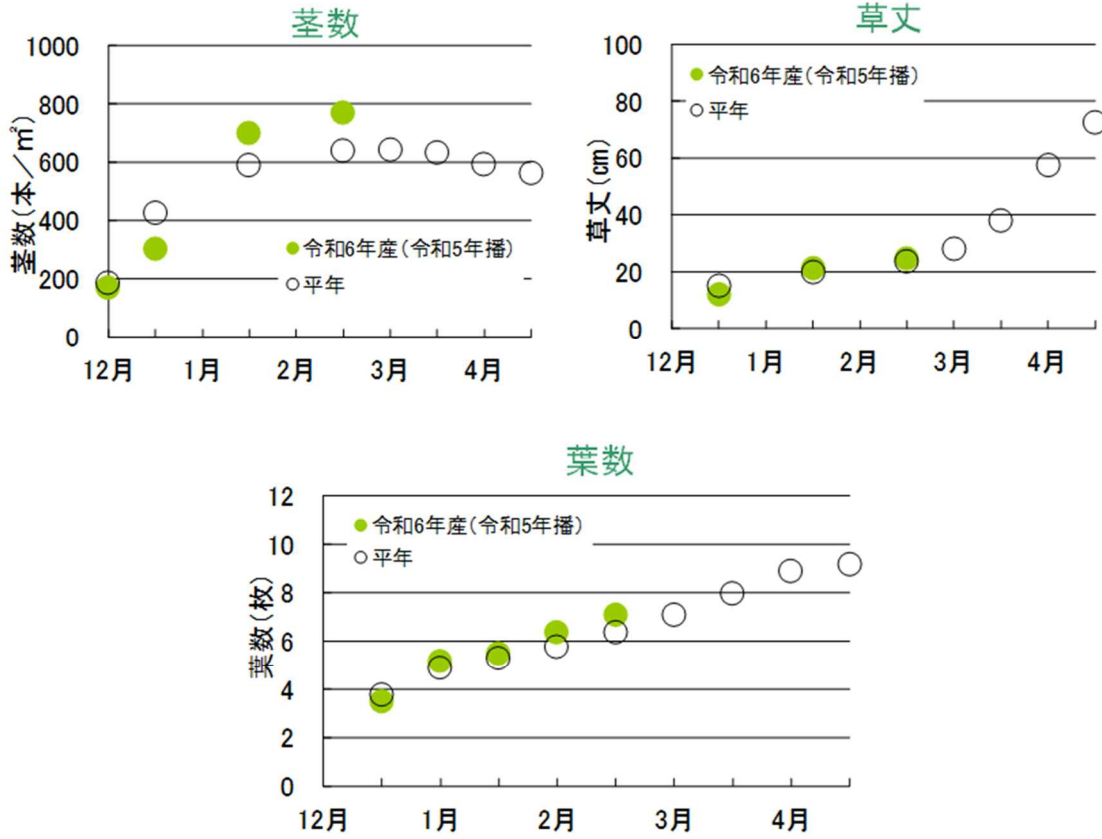


※草丈、茎数、葉数の平年値は、平成28,30～令和5年産(平成27,29～令和4年播)の7年間の平均値。

令和6年産生育調査結果(2)

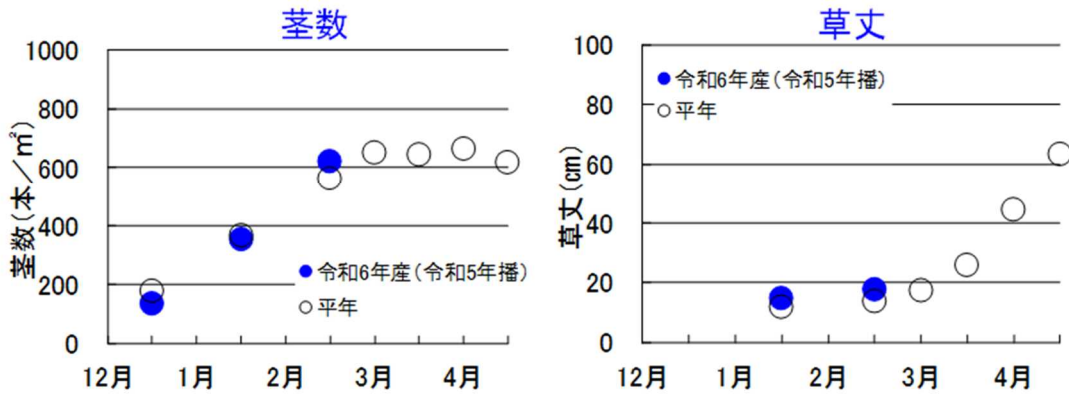
「ふくさやか」

令和5年11月8日播



(参考)

令和5年11月20日播

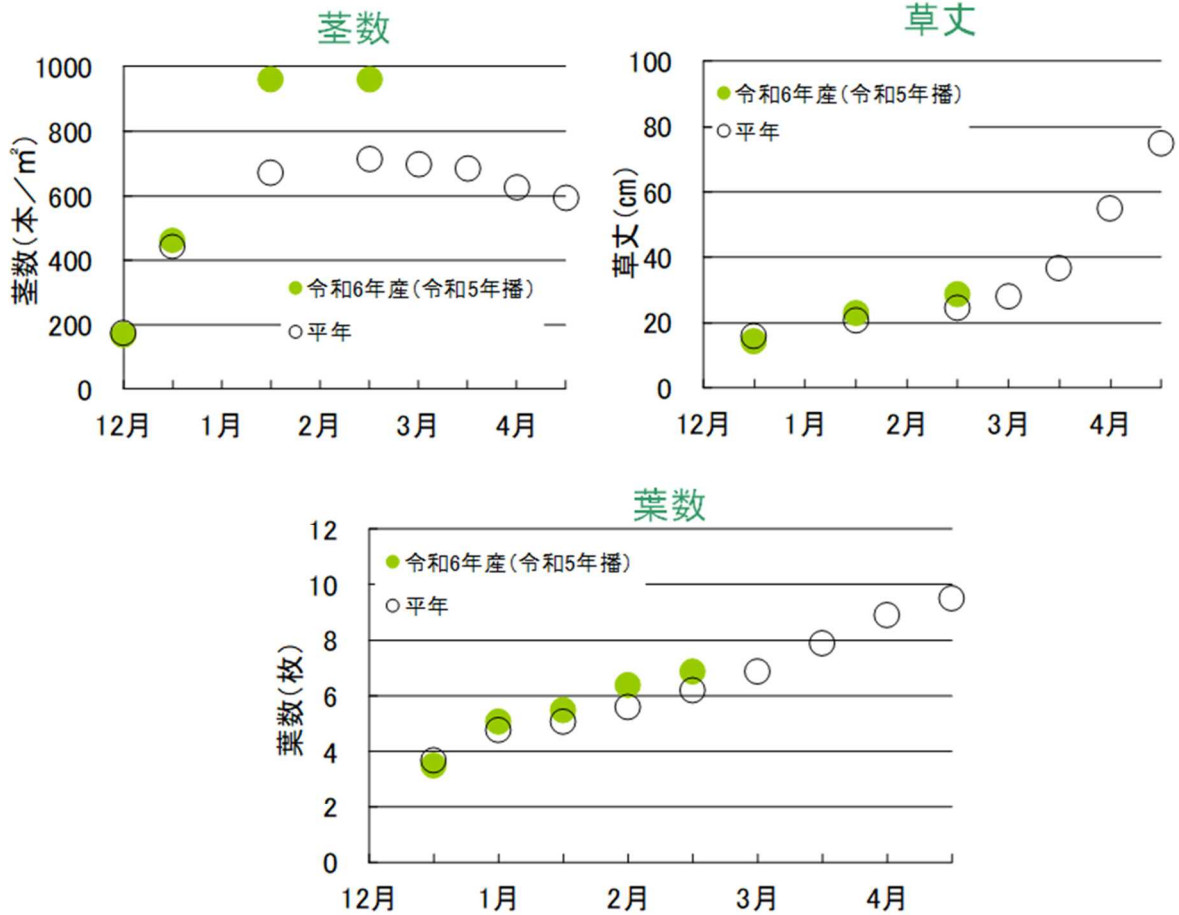


※草丈、茎数、葉数の平年値は、平成26～令和5年産(平成25～令和4年播)の10年間の平均値。

令和6年産生育調査結果(3)

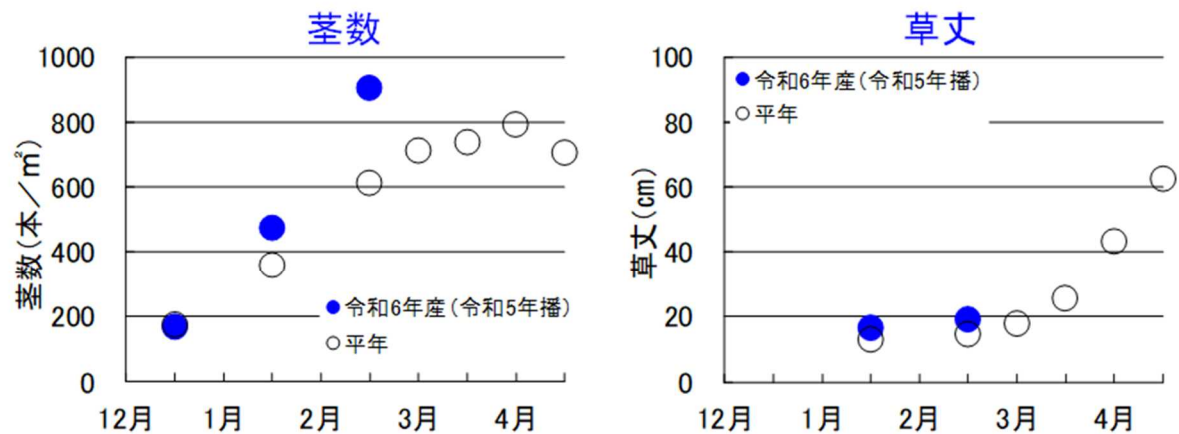
「農林61号」

令和5年11月8日播



(参考)

令和5年11月20日播



※草丈、茎数、葉数の平年値は、平成26～令和5年産(平成25～令和4年播)の10年間の平均値。